

巻頭言

家政学部長 白井靖敏

平成24年の中央教育審議会の答申のなかで、「(学生の)学修意欲を高めて主体的な学修を確立」させるために、様々な方策を取るべきと示されました。特に、「学士力」を育むためには、ディスカッションやディベートといったアクティブな授業や教室外学修プログラムによる主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換が必要とされています。総合科学研究所が中心となって取り組んでいる地域連携型の学びは、まさに大学で学んだ知識や技術を広く地域に貢献し、学習を通してジェネリックスキルズ等を獲得することのできる実践的な学びと言えます。こうした地域連携型の学びのひとつとしてサービラーニングが注目されています。サービラーニングは、大学で学んだ知識や技術を社会的活動に生かすことを通して市民的責任や社会的役割を感じ、実践力を養うことを目的とした教育方法です。その原点は、アメリカで経験学習として発展した教育形態であり、今や、全米950以上の大学でサービラーニングが取り込まれています。本学においても、短期大学部が平成25年4月か

ら正課の授業として「地域貢献演習」を導入し、着実に成果を上げています。また、家政学部においても、食物栄養学科が平成30年度に「とこなめ焼共同組合」と協定して、急須で入れたお茶の科学的な検証などを通し、PBL (Project Based Learning) として学修の質を高めています。一方で、総合科学研究所機関研究の授業改善プロジェクトの一環である「学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法の開発」(平成27-29)のなかで見えてきた学生の実態として、①学生の主体性が決して高いとはいえず受け身の傾向がある。②学生は講義形式の授業を望んでおり、課題発見や解決をする学習過程を自分自身ではなく教員等他者に任せたいと考えている傾向が強い。③グループワーク等の授業の希望は少なく、アクティブラーニングの必要性をあまり理解・認識していないことから、今後、地域企業や諸団体と連携協定を結び、より深い学びとしてのPBL等の地域連携型の教育を推進していく必要を強く感じます。

● 総合科学研究所

平成30年8月22日(水)実施

育休復帰応援講座

総合科学研究所が推進する「開かれた地域貢献事業」に、新たに名古屋市瑞穂区役所との連携事業がスタートしました。昨年度の瑞穂区役所との協定締結を受け、瑞穂区内の働く女性の支援を目的としたイベント開催を計画し、本年度、第1回目となる連携事業「育休復帰応援講座 時短レシピでクッキング!」が開催されました。

8月22日午前、名古屋女子大学調理室において、調理時間の短縮につながる講義と、実際に献立を示して参加者全員で調理実習を行いました。実習後には、瑞穂区役所担当者から保育園入園申請手続きに関する案内など、職場復帰に備える情報提供が行われました。また、別室で託児体制をとり、参加者同士がゆっくりと過ごし良い交流の場が提供できました。

今後とも、地域の方々と触れ合う機会を多くご提供し楽しんでもらい、瑞穂区役所を含めた各公共施設との連携を図る事業を計画、推進すべく、取り組んでまいります。

(文責：森屋裕治)



講師からの講義の様子



調理の様子

● 短期大学部

平成31年3月発行

さくらスイーツマップ

短期大学部生活学科1年生12名が、瑞穂区地域力推進室と協力し「さくらスイーツマップ」の作成をするために、手分けして瑞穂区内を歩きました。さくらを素材にしたスイーツを販売している店舗を調査し、「さくらスイーツマップ」の企画についてお店の方に説明したり、地図に記載できるようにランドマークを調査したりしました。普段何気なく歩いている道も視点を変えれば発見することが多くあり、瑞穂区の魅力を再認識することができました。

(文責：箕浦恵美子)



完成したさくらスイーツマップと学生たち

● 中高一貫

平成30年6月、9月、10月、平成31年1月に実施

クリーンキャンペーン

今年度も1年間を通して地域貢献活動として「クリーンキャンペーン」を実施しました。

クリーンキャンペーンとは瑞穂区役所地域力推進室が行う毎月25日の区内清掃活動に本校生徒会活動の一環として参加するものです。毎月25日といっても、定期試験中や長期休暇などを除くと年間で4回程度しかできません。今年度は6月、9月、10月、1月に実施できました。運動部と各クラス美化委員（一部代表議員）が参加します。

毎回生徒たちは朝8時から区役所前で職員の方のお話を聞いた後、いくつかのルートに分かれて学校までの道路に落ちているゴミを拾っていきます。特に1月は凍える中での活動となるなか、充実感を持って取り組んでいます。ゴミの中にはタバコの吸い殻をはじめ飲みかけのペットボトルもあり、清掃活動をしながら公共マナーを守ることの大切さを生徒たちも痛感している様子でした。

（文責：江本幸司）



瑞穂区役所にて



活動の様子

● 中高一貫

毎月1回実施

特別養護老人ホーム ボランティア

毎月1回、八事にある老人施設でボランティア活動をさせていただいています。長いお付き合いでもう20年以上となり、いつ伺っても清潔で、落ち着いた雰囲気施設の施設です。そこでは、主に清掃活動や医務用品の準備、高齢者の方々との話し相手などをさせていただいていますが、この日は毎年恒例の夏祭りでしたので、綿菓子作り、冷麦や天丼の提供をお手伝いしました。ご利用者のご家族も大勢来苑され、賑やかで皆さん楽しげでした。

このような信頼される施設で長年活動することができ感謝しています。

（文責：神谷弘子）



活動の様子

● 短期大学部

平成30年11月23日(金・祝)実施

地域ボランティア活動 スポーティブ・ライフ in 瑞穂

今回は、11月23日（祝）に開催されました名古屋市教育委員会主催のスポーツイベント「スポーティブ・ライフ in 瑞穂」に学生有志メンバーでブース出展を企画し、取り組みました。短期大学部保育学科では、1年次より地域のボランティア活動に参加する機会を設けており、毎年、参加している取組となります。

紹介するイベントは、パロマ瑞穂スポーツパークで開催され、主旨として「地域の子どもから大人までがスポーツ・運動に親しむ機会を楽しむ」が掲げられています。参加学生は、授業で学んだ保育に関する知識、技術を参考として「身近にある材料で作ってからだを動かして遊べるおもちゃづくり」をテーマとして、実際に子どもたちと制作をおこなったり、からだを動かしたりする場所を提供し、270名ほどの子どもたちが本学のブースを体験されました。学生は、就学前後の幼い子どもたちに対しても親切に関わり、今回のボランティア活動を通して校外実習に臨む前に貴重な体験となりました。

（文責：藤巻裕昌）



活動風景



子どもたちと一緒に制作する学生たち

● 短期大学部

平成30年10月21日(日)実施

mamacafe ハロウィンイベント

生活学科の「地域貢献基礎演習」では、学士力養成および地域社会への貢献を目的として様々な地域貢献活動を行っています。その一つとして、食をテーマにした貢献を目的とし「mamacafe ハロウィンイベント」を実施しました。瑞穂区の子育て支援施設 mamacafe にて、カード作りとかぼちゃを使ったレシピの展示を行いました。半年かけて準備や練習を行った成果で地域の人々の笑顔を見ることができ、学生たちにとって良い経験となりました。

（文責：石崎智恵利）



活動風景

児童文化研究部 「かけっこ」による活動

児童文化研究部（かけっこ）は、名古屋女子大学公認サークルとして、40年の歴史を持つサークルです。将来保育者を目指す学生が中心となり、保育園や乳児院、また地域の子ども会の行事で人形劇を披露したり、子どもと一緒に楽しむゲームを企画したりしています。12月には「ななくさ保育園」で人形劇を上演しました。今後も、子どもたちの笑顔を楽しみに練習を重ね、ゲームや紙芝居を通じた子どもたちとの交流を続けていきます。

（文責：植田あや）



児童文化研究部（かけっこ）の学生たち

丸善ゼミナール トークイベント

大学図書館では平成26年度より、学生による図書館サポーターを創設し活動を行っています。サポーターは館内資料の案内や学内での催事を通しての読書広報活動のほか、他大学のサポーターとの情報交換、リサイクル図書収益金の国際ボランティア団体への寄附など、学外での活動も展開しています。他大学交流では、平成28年度より、市内三つの女子大学（金城学院大学、椋山女子学園大学、名古屋女子大学）と三女子大学サポーター連携『G3（ジー・スリー）』（Girls of three）を結成し産学連携活動や女子大間での交流を深めています。平成30年度は『G3』交流会で作成、展示した「広辞苑」のPOPがきっかけとなり、丸善が主催する丸善ゼミナールと岩波書店との共催で11月24日に、講演&トークイベント「広辞苑を語る、広辞苑で遊ぶ」を丸善名古屋本店で開催しました。当日は、岩波書店広辞苑編集部副編集長の平木靖成氏による講演と、



イベント案内と
学生作成のPOP



平木靖成氏とのトークセッション

学生が作成したPOPから広辞苑や辞書に関するトークセッションを行い、満席の参加で盛況のうちに終了しました。参加学生には辞書の編集について直接話を聞くことで、知見を深めるとともに、書店との協働企画に参加することで貴重な社会経験を得る機会にもなりました。

（文責：尾崎友子）

「瑞穂区まちかどコンサート」に 越原記念館が協力 100名が集う

平成31年2月14日(木)、13:30-14:45、越原記念館ホールにて、瑞穂区役所主催の「まちかどコンサート」に越原記念館が協力し、「あなたに贈るバレンタイン～想いを音楽にのせて」をタイトルに演奏会を実施しました。この事業は区内随所において音楽を通して、地域の方々、学校や企業などの交流の機会とにぎわいづくりを図るものです。

今回、第1部の名古屋女子大学演奏では文学部児童教育学科音楽ゼミ3年生の13名による、トーンチャイム演奏「虹の彼方に」でオープニングを飾りました。続いて本学教員2名が「宵待草」「すみれの花咲く頃」など歌唱4曲を披露し、第2部はTSUKAMOTO SISTERS 3人によるサクソフォンの演奏でした。全12曲の調べは100名の参加者を魅了しました。

演奏後は参加者に2グループに別れていただき、記念館の企画展「乙女たちのよそおところ」を中心に1時間程熱心に展示解説を聞かれ、この日特別に公開した本学園創立者の越原春子先生が創案した「名古屋帯」に多くの関心が寄せられました。

地域の方々へは本学園の多彩な取り組みを一層ご理解いただき、また学生にとっても授業成果を発表できる好機となりました。

（文責：鈴木孝子）

まちかどコンサート.....13:30-14:45

第1部 名古屋女子大学演奏

オープニング トーンチャイム

文学部児童教育学科学生

歌唱(ソプラノ) 岡(坪井)真里子・河合玲子

伴奏：伊藤充子・白石朝子

第2部 TSUKAMOTO SISTERS

サクソフォン演奏

企画展・写真展・常設展.....14:50-15:50

展示解説：遠山佳治・鈴木孝子



トーンチャイム

歌唱 岡 真里子

歌唱 河合玲子

サクソフォン演奏

編集後記

地域連携ニュースレターも第2号となりました。ご協力頂きました多くの皆様に厚く感謝申し上げます。地域貢献として学園全体で様々な活動が行われています。地域に根付いた越原学園の存在を示すだけでなく、学園自体がより活気を持つことでできています。また、連携から新たな発見もありました。瑞穂区役所との連携事業の育休復帰応援講座では、働く女性支援として実施しましたが、ご夫婦での参加がありお父さんへの支援が女性支援にもつながるという思いを持たせてくれました。それぞれの連携で得るものがあり、その中で予想外の新しいものも生まれていると感じています。地域連携ニュースレターでは今後も、こうした活動を紹介すると共に、新しい動きをお伝えしていきます。

（文責：吉川直志）